

平成 27 年度 事務事業評価シート

新規 継続 変更

一般ソフト事業 施設等維持管理 行政事務

事務事業名	交通安全対策事業	予算事業名	交通安全対策事業	担当課	田園都市課						
会計名称	一般会計	予算科目	8款2項5目	所属長名	實淵 孝則						
総合計画での位置づけ	豊かな自然と暮らしの便利さが調和したまちをつくる 便利な都市環境をつくる			担当責任者名(記入者)	城戸 貞人						
事業の性格	■ 内部管理事務 □ 法定事務	法令根拠等									
事業の対象	道路利用者	実施期間	【開始年度】	平成 年度							
			【終了年度】	平成 年度(予定) ■ 設定なし							
事業の目的	街路灯や防護柵、区画線等交通安全施設を整備することにより道路利用者の安全性に資すること	事業の内容	街路灯・防護柵その他交通安全施設の整備・維持管理								
改善策の具体的取り組み(当初)	街路灯や防護柵、区画線の設置・維持管理を行う。	改善策の具体的取り組み(二次評価後)	街路灯や防護柵、区画線の設置・維持管理を行った。								
事業費及び財源内訳(千円)				事業活動の実績(活動指標)							
項目	26年度決算	27年度予算	9月末の執行状況	27年度決算	項目	単位	26年度実績	27年度予定	9月末の実績	27年度実績	
事業費	直接事業費	48,178	6,000		12,497	街路灯・防護柵・区画線設置工事	箇所	2	2	3	
	人件費	1,376	1,340		1,340						
	合計	49,554	7,340		13,837						
財源内訳	国庫支出金					エレベータ入替工事	箇所	1	0	0	
	県支出金										
	地方債										
	その他の一般財源	49,554	7,340		13,837						
事務量	①人人工数	0.20	0.20		0.20						
	②人件費単価	6,883	6,701		6,701						
	③補助事業人件費										
	人件費(①×②-③)	1,376.60	1,340.20		1,340.20						
向こう5年間の直接事業費の推移(千円)				28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	5年間の合計		
		5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	25,000		
成果指標	交通安全施設整備工事を計画的通り施工し、維持管理についても適正に行うことができれば100とする。	区分年度	26年度	27年度	28年度	目標年度					
		実績	100	100							
指標設定の考え方	交通安全施設整備工事の計画的な施工および施設の適正な維持管理により道路利用者の安全が図られるため成果指標とする。(計画的施工・適正な維持管理の達成=100とする)	目標	100	100	100						
今年度の課題への対応状況(途中経過)	転落防止柵の設置、街路灯の新設および修繕を行った。										
事務責任者)	自己評価／担当責任者	目的の妥当性	5 施策の目的そのものである。 4 施策の目的に沿ったものである。 3 施策の目的に全くそぐわない。	5	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E	A	自己の課題認識	各種交通安全施設の設置・維持管理を計画的に行うことができたが、防犯灯設置等住民ニーズは高まっておりさらなる事業推進が必要である。			
		町民ニーズへの対応	5 町民ニーズに直結する。 4 受益者のニーズは捉えている。 3 町民ニーズを捉えたものと言えない。	5	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		町の関与の妥当性	5 町が積極的に関与すべきものである。 4 今のところ関与は妥当と判断できる。 3 町が関与すべきでない。	5	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
	有効性	事業の効果	5 町民がおおいに満足している。 4 町民がほぼ満足している。 3 町民が満足していない。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		成果向上の可能性	5 具体策が明確で、成果実績が向上している。 4 具体策が明確で、成果の向上が期待できる。 2 問題を解決できる目処が全く無い。	5	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		施策への貢献度	5 施策推進への貢献は多大である。 4 施策推進に必要である。 2 施策推進につながらない。	5	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
	効率性	手段の最適性	5 活動指標が向上し、新しい活動指標を設定できる。 4 計画・手段が効率的である。 2 活動指標の実績が上がらず、効率的な手段でない。	5	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		コスト効率	5 予算額内で目標以上の成果実績の向上が見られた。 4 予算額内で目標の80%以上の実績をあげた。 1 成果実績に対して、予算額が過大である。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		受益者負担の適正	5 コスト効率が良く、サービスとのバランスが良い。 4 適当な受益者負担と判断できる。 1 コスト効率が悪く、受益者以外の負担が大きい。	5	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
	評価／所属長	一次評価／所属長	目的の妥当性	5 施策の目的そのものである。 4 施策の目的に沿ったものである。 1 施策の目的に全くそぐわない。	5	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E		所属長の課題認識	町民の安全安心な社会の実現のため、交通安全施設の整備と適正な維持管理の住民ニーズは高まっており、積極的な整備推進が求められている。		
町民ニーズへの対応			5 町民ニーズに直結する。 4 受益者のニーズは捉えている。 1 町民ニーズを捉えたものと言えない。	5	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
町の関与の妥当性			5 町が積極的に関与すべきものである。 4 今のところ関与は妥当と判断できる。 1 町が関与すべきでない。	5	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
有効性		事業の効果	5 町民がおおいに満足している。 4 町民がほぼ満足している。 1 町民が満足していない。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		成果向上の可能性	5 具体策が明確で、成果実績が向上している。 4 具体策が明確で、成果の向上が期待できる。 1 問題を解決できる目処が全く無い。	5	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		施策への貢献度	5 施策推進への貢献は多大である。 4 施策推進に必要である。 1 施策推進につながらない。	5	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
効率性		手段の最適性	5 活動指標が向上し、新しい活動指標を設定できる。 4 計画・手段が効率的である。 1 活動指標の実績が上がらず、効率的な手段でない。	5	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		コスト効率	5 予算額内で目標以上の成果実績の向上が見られた。 4 予算額内で目標の80%以上の実績をあげた。 1 成果実績に対して、予算額が過大である。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		受益者負担の適正	5 コスト効率が良く、サービスとのバランスが良い。 4 適当な受益者負担と判断できる。 1 コスト効率が悪く、受益者以外の負担が大きい。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						

平成 27 年度 事務事業評価シート（裏面）新規 継続 変更

一般ソフト事業 施設等維持管理 行政事務

事務事業名	交通安全対策事業	予算事業名	交通安全対策事業	担当課	田園都市課
会計名称	一般会計	予算科目	8款2項5目	所属長名	實淵 孝則
総合計画での位置づけ	豊かな自然と暮らしの便利さが調和したまちをつくる 便利な都市環境をつくる			担当責任者名（記入者）	城戸 貞人
				電話番号（内線）	
事業の性格	■ 内部管理事務 □ 法定事務	法令根拠等			
事業の対象	道路利用者	実施期間	【開始年度】 【終了年度】	平成 年度 平成 年度(予定)	■ 設定なし
事業の目的	街路灯や防護柵、区画線等交通安全施設を整備することにより道路利用者の安全性に資すること	事業の内容	街路灯・防護柵その他交通安全施設の整備・維持管理		
改善策の具体的取り組み（当初）	街路灯や防護柵、区画線の設置・維持管理を行う。	改善策の具体的取り組み（二次評価後）	街路灯や防護柵、区画線の設置・維持管理を行った。		

（一） 自己 担当 責任 者 評 価	妥当性	目的の妥当性	5	A		A	5	目的の妥当性	妥当性	（二） 所 属 長 評 価	
		町民ニーズへの対応	5				5	町民ニーズへの対応			
		町の関与の妥当性	5				5	町の関与の妥当性			
		事業の効果	4				4	事業の効果			
		成果向上の可能性	5				5	成果向上の可能性			
	有効性	施策への貢献度	5				5	施策への貢献度	有効性		
		手段の最適性	5				5	手段の最適性			
		コスト効率	4				4	コスト効率			
		受益者負担の適正	5				4	受益者負担の適正			
課題認識	各種交通安全施設の設置・維持管理を計画的に行うことができたが、防犯灯設置等住民ニーズは高まっておりさらなる事業推進が必要である。	自己評価は、担当者が主に事業推進を効率的効果的に進めたかどうかを評価したもの。 一次評価は、担当者の自己評価を踏まえて施策の推進を念頭に置き、所属長が評価したもの。	町民の安全安心な社会の実現のため、交通安全施設の整備と適正な維持管理の住民ニーズは高まっており、積極的な整備推進が求められている。	課題認識							

（三） 施策を踏まえた判断評価	□	一次評価結果より以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。		指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
	■	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。		
	□	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。		
	□	一次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直しを求める。		
	□	市民サービスに直結する主要事業のため、評価そのものを行政評価委員会に諮ることとする。		
	□	一次評価結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
	□	一次評価結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容
		住民の安全を守るために不可欠な事業であり重要度は高いと思われる。安全対策委員会と連携をとり住民が安心して暮らせる町づくりのため積極的な計画を作ってください。そして、住民の要望やそれに対する実績といった、住民のニーズに対して応じられた結果を成果としたり、満足度を測るなど、指標がより解りやすくなることを期待する。

（四） 経営者会議の最終判断	事業の方向性	コメント欄
	<input type="checkbox"/> さらに重点化する。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する。	
	<input type="checkbox"/> 右記の点を見直しの上、継続する。	○指標の設定は難しいが、違った指標設定を検討すること。
	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する。	
	<input type="checkbox"/> 事業の休止、廃止を検討する。	